

## 東海環状自動車道と御望山トンネル

写真は2年前の8月に岐阜大学大学院の集中講義最終日の帰りがけに撮ったものである。東海環状自動車道の「御望山(ごもやま)」トンネル予定地のあたりだ。岐阜大学から車で15分ほどのところで、受講した院生に頼んで車に乗せてもらい、駆け足で回った。

写真にもあるように、このあたりは土砂崩れがひんぱんに起こり、県は77年に急傾斜地崩壊危険区域に指定していた。旧建設省は94年2月に東海環状自動車道西回りルート案を発表したが、それによると道路は御望山トンネルを貫くことになる。「こんな危ない山にトンネルなんて」と、第2千成団地の住民が立ち上がることになる。写真のように、「トンネル絶対反対」という看板が立っていた。

じつは何年か前に、岐阜で地方自治研究集会があった時に、団地自治会の人から話を聞くことがあった。それまでは恥ずかしながら問題さえも知らなかった。自治会の人に頼んでビデオと資料を頂いた。「意見書」や「請願書」などがファイルされた分厚い資料集から、いかに計画が杜撰であるか、地道な住民運動の経過をよく把握することができた。

ビデオは中京テレビのニュースプラスワンの「納得いかないコーナー」で97年2月12日と13日に報道されたものである。旧高富町(現在の山県市)の軟弱地盤の地でのインターチェンジの建設、それに御望山トンネルについてだ。このビデオは公共事業や地域政策の講義の際に、しばしば利用させてもらっている。「国がお造りになる道路だから、当然しっかりと調査がなされている」といった岐阜市の課長の発言をはじめとして、無責任きわまりない地元自治体の対応ぶりに、ビデオを何回見ても腹が立ってくる。学生の感想も同様であり、講義ではせめて「こうした公務員にはなってほしくない」というメッセージを送ることにしている。



(7月3日 記)